

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	植物微生物叢シンポジウム 2024 での研究発表及び研究所訪問
氏名 Name	高松 恭子
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	農学研究科・応用生命科学専攻・博士後期課程 3 年
渡航国 Country	オランダ
渡航日程 Travel schedule	2024 年 6 月 15 日 ~ 2024 年 6 月 26 日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

本渡航計画では、オランダのアムステルダムに渡航し、5th Plant Microbiome Symposium 2024 に参加して研究発表を行うことで研究成果を報告するとともに、対面でのディスカッションを通じて国際的な研究者ネットワークの構築を行うことを計画した。また、アムステルダム大学の研究室を訪問して博士号取得後の計画についての話し合いをすること、申請者らが単離した菌を用いた研究を行っている Netherlands Institute of Ecology (NIOO) を訪問して2つのセミナーに出席するとともに研究発表を行うことを計画した。

参加して発表を行った 5th Plant Microbiome Symposium 2024 では、世界最先端の植物—微生物相互作用の研究者による招待講演・口頭発表・ポスター発表が行われた。申請者は「トマトの主要な二次代謝産物である α -トマチンに着目した、根圏土壌における植物—微生物間相互作用」に関するポスター発表を行うことにより、自身の研究成果を世界に広く報告するとともに、今後の研究の発展とキャリアの形成に繋げることを目的とした。また、研究室および研究所の訪問により、今後のキャリアプランを具体的にイメージするとともに、今後の研究活動の精度を上げることを目指した。

成果 Outcome

参加した 5th Plant Microbiome Symposium 2024 における研究発表では、発表の持ち時間の間にオランダやスイスの大学や研究所に所属している教員や研究員、学生を中心に 10 人以上と議論を行うことができた。また、博士後期課程の学生や若手研究員を中心に親睦を深めることができ、独自のネットワークを構築した。会のプログラムに含まれていたコーヒープレイクや食事会では、最先端の研究を行っている研究者を中心に積極的な交流を行うことを心掛けた。特に自身が筆頭著者として出した原著論文において引用をした論文の著者も講演者として参加していたことから、交流を試みたところ質疑をすることができた。また、申請者は栽培種トマトを中心とした研究を行ってきたが、野生種トマトを専門に扱うエクアドルの研究者も複数人参加していたことから、交流会の中で野生種トマトに関する知見を深めた。

アムステルダム大学の研究室訪問では、当初予定していた Kathrin Wippel 博士の研究室や共同利用の実験器具や機器の設備の紹介に加えて、直前まで参加していた 5th Plant Microbiome Symposium 2024 で親睦を深めた研究員や博士後期課程の学生の案内で、共同利用の温室や植物栽培室、他の実験室なども見学させていただいた。また、博士の学位取得後の研究計画に関するディスカッションを行った。

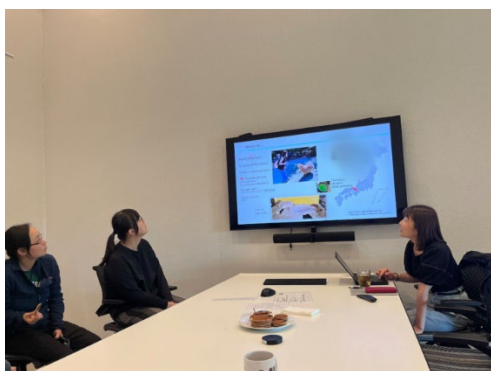
NIOO の研究所訪問では、研究所単位と部門単位の 2 つのセミナーに出席した。研究所単位のセミナーでは、月一回程度で開催されている他の研究機関から招いた著名な研究者の招待講演が行われる日であったこともあり、講演を拝聴する機会を得ることができた。自身がセミナー発表をする機会も設けていただき、これまでの研究成果を発表して質疑応答を行うことで、申請者と同様にトマトの研究をしている分野の近い研究者らから多くの意見をいただくことができ、充実したディスカッションの機会となった。また、シンポジウムやセミナーでの発表を通じて共同研究の話が新たに出てきたことから、共同研究に向けたミーティングが NIOO の Jos Raaijmakers 教授、Paolina Garbeva 博士、Jie Hu 博士、Wageningen 大学の Romyana Karlova 博士との間で急遽行われた。また、研究所に在籍している博士後期課程の学生に案内いただいて、研究所内の温室や実験室を見学させていただいた。加えて、夕食を NIOO の研究員、学生、さらにエクアドルから訪問していた野生種トマトを研究している学生たちと共にすることで親睦を深めた。



ポスター発表の様子



訪問した研究所



セミナー発表の様子

今後の展望 **Prospects for the future**

世界最先端の研究をする植物—微生物相互作用の研究者が集まる 5th Plant Microbiome Symposium 2024 に参加して研究発表を行い、アムステルダム大学と NIOO への訪問を通じて、海外の研究者たちと交流する機会を得るとともに、今後の研究の発展に繋がるような知見を得る機会となった。また、研究者としてのキャリア形成の意味でも貴重な機会を得ることができた。特に本渡航では、当初の計画時点で想定していた以上の人脈や、新たな知見、経験を得ることができた。また、本渡航において訪問した大学や研究所の先生方との帰国後のミーティングを既に予定していることから、今後の自身の研究やキャリアの発展に繋がられるように努めたいと考える。最後になりますが、このような貴重な機会へのご支援をいただきましたことから御礼申し上げます。